

賀寿期 5 歳層

古希期（70歳～74歳） 昭和19年～昭和15年

「七十古希」のこと。

「人生七十古来稀なり」と詠った杜甫の詩「曲江」から七〇歳を「古希」と呼ぶようになったといえます。唐代より前にどう呼んでいたかはわかりませんが、「七十古希」はすでに一二〇〇年余の経緯をもつことばです。古来稀れというのですから七〇歳まで生きることにはむずかしかったのでしょう。杜甫自身も旅先で貧窮のうちに五九歳で没しています。杜甫が詠ってたどりつけなかったことから「七十古希」が長寿とされたのでしょう。

杜甫の時代のみやこ長安は安禄山軍の侵入を受けて「国破れて山河在り、城春にして草木深し」（杜甫「春望」から）といったありさま。杜甫は意にかなわぬ日々を酒びたりで送っていたらしく、「酒債は尋常行く処に有り、人生七十は古来稀なり」（酒の付けは常にあちこちにあるけれど、あつてほしい七〇歳は希にしかない）と有って困るものと望んでかなわないものとを対比しています。高級官人は七〇歳になると国中どこでも使える杖をもらって「杖国」と呼ばれたといえます。長安で暮らした安倍仲麻呂は七〇歳を越えていましたから立派な「古希杖」を拝受したことでしょう。

「還暦」は十干十二支のひとめぐりですから満年齢の六一歳ですが、ほかの賀寿はしきたりに従って数えの年齢でおこなうようですが、どうなのでしょう。さまざまな行事が満年齢ですから満年齢70歳の誕生日に「古希」を祝うほうに実感があるようです。

「百齡眉寿」のこと。

「百齡」は百歳のこと。大正3年（一九一四）生まれの人が百歳です。わが国では百歳以上の人が5万人を超えてなお増えつづけており、いかに史上稀な長寿国であるかが知られます。「七十古希」といわれ、七〇歳が長寿の証とされてきたとすれば百歳ははるか遠い願望だったのでしょう。

「眉寿」は長寿の証。老齢になると白い長毛の眉（眉雪）が生えて特徴となります。同じ唐の書家虞世南は「願うこと百齡眉寿」（「琵琶賦」から）と記して百歳を願いましたが、八〇歳を天寿として去りました。それでも「七十古希」の杜甫は五九歳でしたから、長寿への願望は遠くに置いたほうがよいようです。「七十古希」を無事に過ごしたら、次は「百齡眉寿」をめざすこととなります。

「賀寿期 5 歳層」のこと。

先人は、見定めえない人生の前方に次々に賀寿を設けて、個人的長寿のプロセスを祝福してきました。いまも個人の「賀寿の会」はそれぞれに祝われています。高齢者が少ないころはそれでよかったのですが、六〇歳以上が約三九〇〇万人（六五歳以上が約三二〇〇万人）という高齢社会では、一人ひとりではなく、高齢者が多くの同年齢の仲間とともに

に暮らして、励まし合いながら一つひとつの賀寿期を過ぎて百寿期をめざすのもいいでしょう。それが「賀寿期5歳層」の生き方をおすすめする理由です。

賀寿期五歳層のステージ

2014年では、

百寿期（100歳以上）	大正3年以前
白寿期（95歳～99歳）	大正8年～大正4年
卒寿期（90歳～94歳）	大正13年～大正9年
米寿期（85歳～89歳）	昭和4年～大正14年
傘寿期（80歳～84歳）	昭和9年～昭和5年
喜寿期（75歳～79歳）	昭和14年～昭和10年
古希期（70歳～74歳）	昭和19年～昭和15年
還暦期（60歳～69歳）	昭和29年～昭和20年

<注>平成26年は大正103年、昭和89年に当たります。

「団塊（昭和22年～24年）」の人びとがすべて65歳に。

2011年1月4日に日野原重明さんが「百寿期」に達して話題になりました。2012年は4月22日に新藤兼人さんが到達しましたが、おしいかな5月29日に亡くなりました。卒寿期には瀬戸内寂聴・水木しげる・鶴見俊輔さんが、傘寿期には樋口恵子・堂本暁子・岸恵子さん、石原慎太郎・五木寛之・仲代達矢さんが、そして古希期には小泉純一郎・小沢一郎・松方弘樹・松本幸四郎・青木功・尾上菊五郎さんなどが到達しました。「七十古希」だからといって老成することはありません。ご覧のとおりまだまだ先があります。日また一日、気力を萎えさせずに、同年齢の仲間といっしょに賀寿期の一つひとつ重ねながら新たな経験・出会いを楽しむ人生が待っているのですから。

とくに昭和15年から19年生まれのみなさんは、ご自分は記憶にないでしょうが、ご両親は戦時下できびしい暮らしをしながら、子どもを産み育てたのであろうと推察されます。

三世代年表 生年別の人口（男・女）、流行語、流行歌

◇「高年期（古希期）」（70～74歳） 人口は二〇一〇年一〇月一日。「国勢調査」総務省統計局

生年	干支	年齢	人口（男・女）万人	流行語・流行歌
一九四四	昭和一九	甲申七〇古希	83・0 90・3	鬼畜米英。学童疎開。「同期の桜」「お山の杉の子」
一九四三	昭和一八	癸未七一	80・0 87・4	撃ちてし止まん。学徒出陣。「若鷺のうた」
一九四二	昭和一七	壬午七二	81・6 89・8	欲しがりません勝つまでは。「南から南から」
一九四一	昭和一六	辛巳七三	78・8 87・3	八紘一宇。国民学校。「めんこい仔馬」「里の秋」

昭和シニア人名録

物故者も最近の人やまだ心の中に生きつづけている（話題になる）人は残してあります。

ご自分と「賀寿期」をともに生きる「知名人」の方の小録としてご参考までに。

ご紹介できるのは少数ですが、これだけの優れた人びとが、長年かけてつちかった知識・技能・経験そして築き上げた人格を保って活躍している姿がいつも見えているような社会が、「本格的な日本高齢社会」です。

古希期（70歳～74歳） 昭和19年～昭和15年

1940（昭和15）年

加藤一二三（1・1 将棋） 沢渡朔（1・1 写真家） 津川雅彦（1・2 俳優） 三井康有（1・2 防衛問題） 唐十郎（2・11 劇作家） 中村敦夫（2・18 俳優・政治家） 森田公一（2・25 作曲） 上条恒彦（3・7 歌手） 大空真弓（3・10 俳優） 鳥越俊太郎（3・13 ジャーナリスト） 片岡義男（3・20 作家） 志茂田景樹（3・25 作家） 本橋成一（4・3 写真家） 小林研一郎（4・9 指揮者） 村松友視（4・10 作家） 村田幸子（5・14 アナウンサー） 王貞治（5・20 プロ野球） 荒木経惟（5・25 写真家） 石弘之（5・28 環境問題） 立花隆（5・28 評論） **大鵬幸喜**（5・29 大相撲） 田中尚紀（6・19 政治家） 張本勲（6・19 プロ野球） 扇田昭彦（6・26 演劇評論） 山本圭（7・1 俳優） 浅丘ルリ子（7・2 俳優） 土居まさる（8・22 キャスター） 麻生太郎（9・20 政治家） 清水旭（11・3 詩人） 池内紀（11・25 ドイツ文学） 篠山紀信（12・3 写真家） 露木しげる（12・6 キャスター）

1941年（昭和16）年

稲越功一（1・3 写真家） 天地総子（1・3 俳優） 岩下志麻（1・3 俳優） 横路孝弘（1・3 政治家） 有田泰而（1・31 写真家） 大宅映子（2・23 ジャーナリスト） 小林克也（3・27 DJ） 上原明（4・5 企業経営者） 小林忠（4・11 日本美術） 市川森一（4・17 脚本） 萩本欽一（5・7 TVタレント） 樺山紘一（5・8 西洋史） 日色ともえ（6・4 俳優） 石坂浩二（6・20 俳優） 長山藍子（6・21 俳優） 倍賞千恵子（6・29 俳優） 後藤明（7・22 アジア史） 柄谷行人（8・6 文芸評論） 粉川哲夫（8・15 メディア論） 安藤忠雄（9・13 建築） 大内延介（10・2 将棋） 佐藤允彦（10・6 ジャズ） 三田佳子（10・8 俳優） 砂川しげひさ（10・11 漫画家） 広瀬悦子（11・9 バイオリニスト） 坂田栄一郎（11・16 写真家） 栗本慎一郎（11・23 経済人類学）

1942 (昭和17)年

落合信彦 (1・8 ジャーナリスト) 角川春樹 (1・8 出版) 小泉純一郎 (1・8 政治家) 嵐山光三郎 (1・10 作家) 中谷巖 (1・22 経済理論) 須田春海 (1・24 市民運動) 今井通子 (2・1 登山家) 秋山亮二 (2・23 写真家) 山下洋輔 (2・26 ピアニスト) 李麗仙 (3・25 俳優) 北の海勝昭 (3・28 横綱) 林海峯 (5・6 囲碁) 大竹英雄 (5・12 囲碁) 小沢一郎 (5・24) 三枝成彰 (7・8 作曲) 佐々木毅 (7・15 政治学) 松方弘樹 (7・23 俳優) 松本幸四郎 (8・19 歌舞伎俳優) 石井志都子 (8・31 バイオリニスト) 青木功 (8・31 プロゴルフ) 尾上菊五郎 (10・2 歌舞伎俳優) 正田修 (10・11 企業経営) 島田祐子 (10・12 声楽) 日野皓正 (10・25 ジャズ奏者) 浜畑賢吉 (10・29 俳優) 南部鶴彦 (11・6 産業組織) 寺田農 (11・7 俳優) 藤井林太郎 (12・16 企業経営)

1943 (昭和18)年

コシノミチコ (1・29 服飾デザイン) 池内新子 (2・12 モダンダンス) アントニオ猪木 (2・20 プロレス) 大前研一 (2・21 政策研究) 北大路欣也 (2・23 俳優) 内田繁 (2・27 インテリア・デザイン) 福島泰樹 (3・25 歌人) ファイテング・原田 (4・5 ボクシング) 尾上菊之丞 (4・6 日本舞踊) 輪島功一 (4・21 ボクシング) ジョージ秋山 (5・27 漫画家) 米長邦雄 (6・10 将棋) 田村毅 (6・14 フランス文学) 川田文子 (6・16 作家) 竹内敏信 (6・21 写真家) 関口宏 (7・13 TV司会者) 大場秀章 (7・14 自然史) 佐々木愛 (7・18 俳優) 野間佐和子 (7・27 出版) 木幡赳士 (7・28 科学技術論) 田村正和 (8・1 俳優) 佐藤信 (8・23 演出家) 広河隆一 (9・5 ジャーナリスト) 深井晃子 (9・10 服飾文化) 池辺晋一郎 (9・15 作曲) 海部宣男 (9・21 天文学) 林隆三 (9・29 俳優) 山本耀司 (10・3 服飾デザイン) 大獄秀夫 (10・28 政治学) 逢坂剛 (11・1 作家) 小室等 (11・23 作曲) 加賀まりこ (12・11 俳優) 丸山健二 (12・23 作家) 加藤登紀子 (12・27 歌手)

1944 (昭和19)年

飯島秀雄 (1・1 陸上) 香山美子 (1・1 女優) 小林興起 (1・1 政治家) 古谷一行 (1・2 俳優) 猪口孝 (1・17 国際関係) 田中真紀子 (1・14 政治家) 小椋佳 (1・18 作詞・作曲) 黒沢年男 (2・4 俳優) 山本寛斎 (2・8 服飾デザイン) 高橋英樹 (2・10 俳優) 井波律子 (2・11 中国文学) 藤原新也 (3・4 写真家・作家) 奥本大三郎 (3・6 フランス文学) 片岡仁左衛門 (3・14 歌舞伎俳優) 袴田茂樹 (3・17 国際政治) 原田大二郎 (4・5 俳優) 羽生春久 (4・11 イラスト) 釜本邦茂 (4・15 ラグビー) 中村吉右衛門 (5・22 歌舞伎俳優) 大石芳野 (5・28 写真家) 三木啓史 (6・3 企業経営) 椎名誠 (6・14 作家) 高見山大五郎 (6・16 相撲) 岡沢憲英

(7・12 比較政治) 久米宏 (7・14 キャスター) 川本三郎 (7・15 文芸評論) 中
村絃子 (7・25 ピアニスト) 渡瀬恒彦 (7・28 俳優) 杉良太郎 (8・14 俳優) み
のもんた (8・22 司会) 野川由美子 (8・30 俳優) 守屋武昌 (9・23 防衛官僚) 小
島一慶 (10・2 司会) 町村信孝 (10・17 政治家) 松平定知 (11・7 放送) 梨元
勝 (12・1 レポーター) 舟木一夫 (12・12 歌手) 南らんぼう (12・13 歌手) 小
宮山宏 (12・15 工学者) 船橋洋一 (12・15 ジャーナリスト)